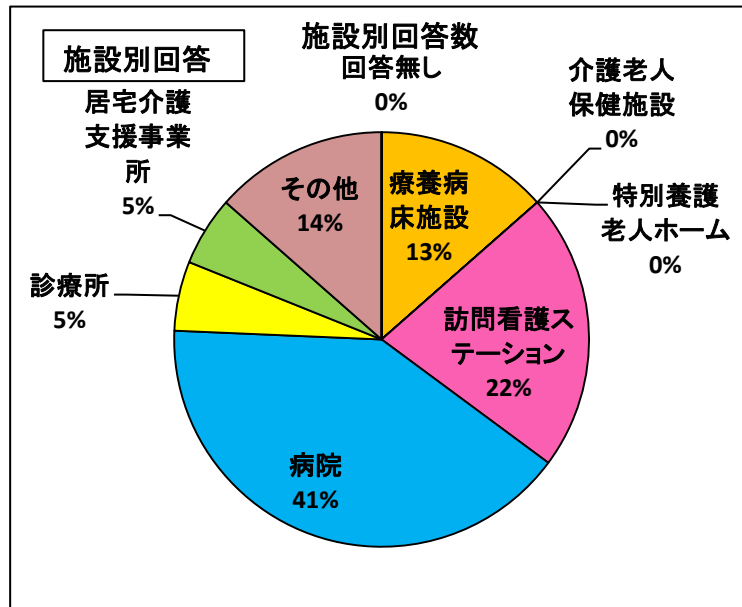


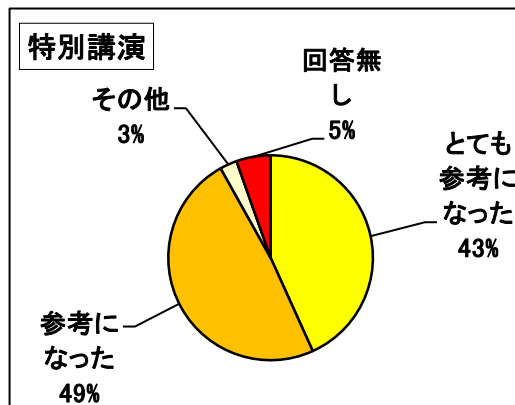
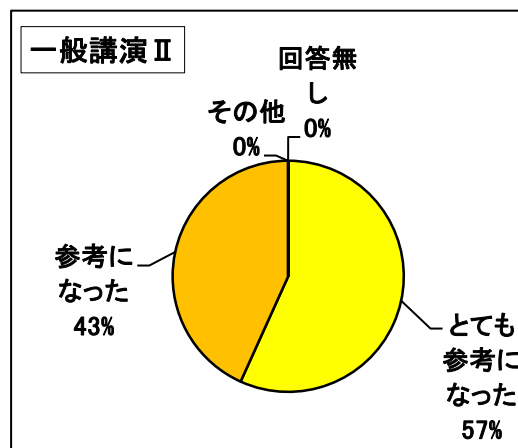
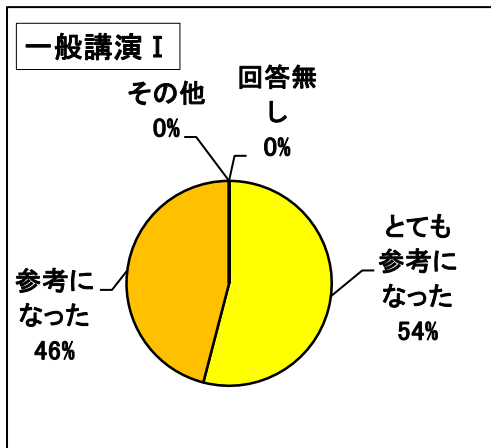
## 第6回慢性期医療を考える会 ～アンケート結果～

参加者数 57名  
 回答者数 37名 (回収率 64.9%)

### 1 貴院、貴施設について教えてください。



### 2 本日の講演について、それぞれご感想をお聞かせ下さい。



## <講演総評>

### ◆認知症への理解が深まった。

「老人の転倒の原因は筋力の低下によるものと思っていたが、それ以外に認知症による注意力の低下も関係あることを学んだ」  
「専門病院以外での認知症の方への対応の向上が大切であるという話が印象に残った」

### ◆地域連携の大切さが分かった。

「小鹿病院、訪問看護ステーションもの取り組みは、訪問看護ステーションに勤める私から見て理想的であり、在宅で最期を迎える方々を支えるために大切なシステムであると感じた」  
「地域連携の必要性について、他の施設のことを聞くことができ勉強できた」  
「在宅医療の強化、看・介護連携等今後必要であることを実践している先駆的活動が学べた」  
「在宅で安心して最期まで生活できるような地域包括システムが充実するいいと思った」  
「認知症の方を地域で支えるためには、地域連携パスも必要となってくると思った」

## <今後の講演内容について>

- ・慢性期におけるリハビリテーション
- ・ターミナルにおける、コメディカルの連携
- ・口腔ケア、吸引、疼痛ケア等の看護技術
- ・介護職のための腰痛予防、安全対策（転倒・転落、拘束など）
- ・看取りケア
- ・病院医師との連携と地域医療

## <現在の問題点、病院・行政に対する意見>

### ◆問題点

「病院→在宅医療施設への情報提供の明確化、情報不足の解決」  
「施設や在宅での看取りがまだまだ充実していない」  
「人員不足や看護職の高齢化」

### ◆国・地方行政機関への意見

「認知症の方が暮らすのは大変で困っている人が多い。一般の方が皆で考える場が必要」  
「行政の今後のビジョン（在宅・地域支援など）に対しての具体的な取り組みが見えていない」  
「行政は現場、現状を知らなさすぎる」  
「経済的に余裕の無い人や家族支援の無い人にも、色々な選択肢が必要」

### ◆連携体制についての意見

「地域包括ケアにおいて、多職種ネットワークは重要」  
「家族が安心して介護できるよう、相談がすぐできる環境が必要」  
「病院医師の連携に対する意識を高めることが必要」